

ニュージーランドの金融政策とNZドル相場の動向

- ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置き。金利据え置きは11会合連続。
- オア総裁は「緩和的な政策金利の水準を相当な期間にわたって維持する」と述べ、中立的な金融政策姿勢を示唆。
- ニュージーランドの1-3月期実質GDPは前期比+0.5%と前期から小幅鈍化。これに対してRBNZはややハト派的言及。
- NZドル相場は米中貿易摩擦への懸念から弱含む展開。安定基調が続く乳製品価格はNZドル相場の見直し要因に。

RBNZは11会合連続で政策金利を据え置き

ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は6月28日、大方の市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置き決定を下しました(図1)。政策金利据え置きは11会合連続となります。

エイドリアン・オア総裁は声明文において、「持続可能な雇用の最大化と低水準で安定したインフレ率を維持するため、我々ができる最善の貢献は緩和的な政策金利の水準を相当な期間にわたって維持することである」と述べ、中立的な金融政策を維持する姿勢を示唆しました。

RBNZは実質GDP鈍化に対してややハト派的言及

また、声明文によれば、RBNZのニュージーランド景気に対する見通しは5月の「四半期金融政策報告」の公表時点から概ね変わっていない模様です。RBNZは家計と政府部門による消費と投資が今後の経済成長を下支えするとの見方を示しています。

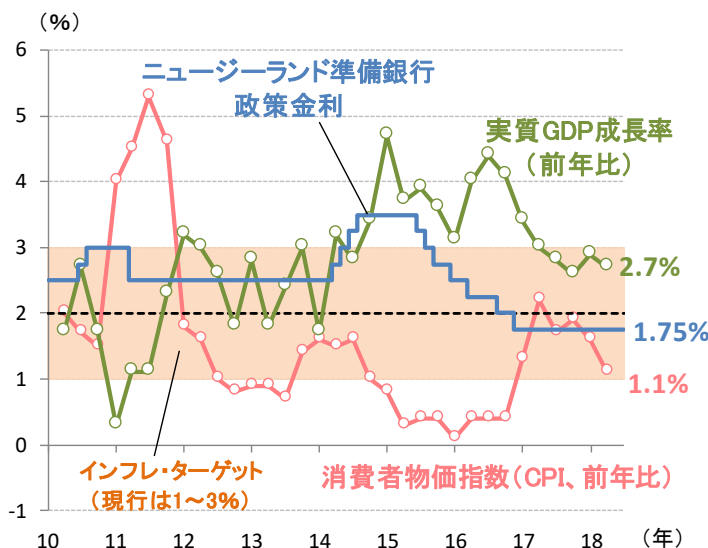
2018年1-3月期のニュージーランドの実質GDP成長率は前期比+0.5%(前年比+2.7%)と市場予想通りの結果となりましたが、2017年10-12月期の前期比+0.6%(前年比+2.9%)からは小幅の成長鈍化となりました(図1)。RBNZはこの点に関して、「足元の実質GDP成長率の鈍化は、経済の余剰供給能力が想定よりもわずかに多いことを示唆している」とややハト派的な言及をしています。

NZドル相場は米中貿易摩擦懸念から弱含む展開

米中間の貿易摩擦への懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まり、足元のNZドル相場は米ドルに対して弱含む展開が続いています。6月27日には約2年振りとなる1NZドル=0.67米ドル台へNZドル安が進みました(図2)。

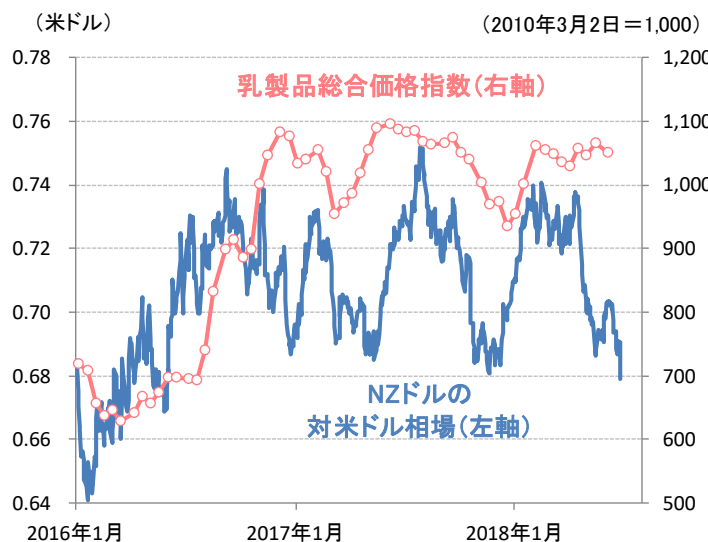
もっとも、ニュージーランドの主要輸出産品である乳製品価格は足元でも安定基調が維持されており、貿易摩擦問題への懸念が一巡すれば、交易条件の面でNZドルへの見直しがなされる可能性もありそうです。

図1: ニュージーランドの政策金利とインフレ率



(出所)ニュージーランド準備銀行(RBNZ)、ニュージーランド統計局
(期間)政策金利: 2010年1月5日~2018年6月28日
CPI・実質GDP: 2010年1-3月期~2018年1-3月期

図2: NZドル相場と乳製品価格の推移



(出所)ブルームバーグ、Global Dairy Trade
(期間)2016年1月1日~2018年6月27日
(乳製品価格は6月5日まで)

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。